

the people

元気なまちには 元気な主張を続け
元気に行動する 市民がいる

the people (NPO法人ザ・ピープル)

令和4年(2022年)1月号

発行:特定非営利活動法人 ザ・ピープル

代表者:吉田 恵美子

所在地:〒971-8168 福島県いわき市小名浜君ヶ塚町13-6

TEL:0246-52-2511 FAX:0246-92-4298

URL:http://npo-thepeople.com/

E-mail:the-people@email.plala.or.jp

onahama.volunteer@gmail.com



2022年幕開けにあたって

2022年には、アフターコロナとして新型コロナウイルス感染症を心配せずに対面で交流できるようになるものと思っていましたが、どうもオミクロン株の感染拡大で通常モードに戻る日はまだまだ先のようです。お互いを思いやって感染拡大させぬように配慮し合う社会の在り方がまだまだ求められています。皆様ご自愛のほどお祈り申し上げます。

とはいえ、新たな年のスタートですから、一歩踏み出すチャレンジは躊躇うことなく行いたいと思います。近頃社会の様々な場面で語られるようになったSDGsという言葉。17の目標が歌になってTVから流れてくるほど身近なものになりました。しかし、32年前本会が産声を上げたときには、こうした概念の影も形もありませんでした。SDGsという言葉はなかったにしても、本会の活動のベースには17の目標に合致する部分が数多く含まれていたと思っています。社会の流れが私たちと歩調をそろえ始めていると言ってもいいでしょう。是非、皆様も私たちと一緒に歩んでください。

▲SDGs17の目標

東日本国際大とのコラボ3題

今年度、地域外からの応援が難しい状況を少しでも改善させようと頑張ってくれているのが、東日本国際大学ライオンズクラブの学生さんたちです。この学生さんたちと一緒に進めた事業のご報告を！なお、これらの事業は地球環境基金の助成を受けて進められました。

◆コットンアイデアコンテストの入賞作品決定

収穫されたコットンの利活用の幅を広めようというアイデアコンテストが、東日本国際大学の学園祭である鎌山祭の中で催され、応募作品50点の中から最優秀賞に選ばれたのは、川口遼馬さんのコットン障子。優秀賞には比留川菜月さんと宍戸万里さんの作品が選ばれました。3人には賞状と副賞が授与されました。



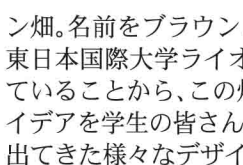
▲最優秀賞の川口さん

昨年度の最優秀賞作品は、鎌山祭の中で立派な試作品として展示されていました。こんな風に大学生のアイデアでコットンプロジェクトに新たな魅力が加わっています。

◆ブラウンコットン畑に素敵な看板が

いわき市平下平窪地区にあるコットン畑。名前をブラウンコットンと言います。この畑での栽培に東日本国際大学ライオンズクラブのメンバーが関わってくれていることから、この畑に看板を立てるにあたってデザインアイデアを学生の皆さんに考えてもらうことにしました。そして、出てきた様々なデザインの中から、いわき短期大学学生の大川

▲展示された試作品



瑞貴さんの作品が実際の看板デザインとして採用され、このほど実際に圃場に設置されました。茶綿の色合いから熊のぬいぐるみを連想してデザインしたものであること。ぜひ、下平窪地区に足を運んで実際にご覧ください。



▲設置された看板のデザイン

◆エコプロダクツ2021出展

毎年12月には、東京ビッグサイトで開催されているエコプロダクツ展。昨年度はコロナ禍のために出展できませんでしたが、今年度の開催には「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」として出展。3日間の会期中に沢山の方々にお会いすることが出来ました。



▲エコプロ出展の様子

今回の出展の成果は、なんとといっても東日本国際大学ライオンズクラブの学生メンバー2人が代表として会場につめて、プロジェクトの説明や糸紡ぎ体験の指導にあたってくれたこと。プロジェクトのことを熱心に説明する彼らの姿に、頼もしさを感じずにはいられませんでした。

みんなで育てたコットンが打ったよ!!

11月18日、いわき市立高坂小学校では、4~6年の180名の児童がコットンの糸紡ぎに挑戦しました。これは、今年度同校で行ってきたコットン栽培の締めくくりの事業。児童が順番で世話をしてきた株から収穫できたコットンだけで足りない部分は、双葉郡から避難してこられているの方々を中心に小名浜にある「みんなの畑」で栽培し収穫できたコットンで補って、全員が糸に紡ぎあげることが出来ました。その際に使用したのは、ペットボトルを活用して作られたペットチャルカ。考案者のNPO法人ペットチャルカの広場代表表明神敬一さんを講師に招き、市内四倉町の天空の里山で活動する織姫の会のメンバーにもお手伝いいただき、10人以上の講師陣での対応となりました。中には、「みんなの畑」のメンバーも加わり、ご自身の体験を踏まえてお話し頂くなど児童との交流を深めました。

出来上がった糸は、クリスマスオーナメントに巻き付け、竹で組み上げた半円形の枠にぶら下げて12月に市内常磐地区の21世紀の森公園で開催されたライトアップイベントの中で点灯されました。180個のオーナメントの柔らかな明かりに児童の丹精込めたコットンたちが優しい陰影を加えてくれる様は、来場者にも好評でした。

なお、この事業は令和3年度「福島県県内避難者・帰還者心の復興事業補助金」の助成事業として実施されました。



▲糸紡ぎをする様子



▲ライトアップされたコットンランプ